

岡崎むかし館 貸出セット「A 代表的なくらしの道具」

代表的なくらしの道具

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
A-01	黒電話 (くろでんわ)	伝える (意思伝達)	ダイヤル式の黒電話。1960～80年代にかけて、どこ家庭でも見られた形です。 昭和39年製	
A-02	携帯ラジオ (けいたいらじお)	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽)	1955年、国産トランジスタラジオの商品化を皮切りに、ラジオの小型化が進みました。 昭和30年代 ビクター 8TA-3型	
A-03	自動蠅取器 (じどうはえとりき)	住まう (住)	大正末期 商品名「ハイトリック」 尾張時計製	
A-04	炭火アイロン (すみびあいろん)	よそおう (容姿)	現在のアイロンの原型となるもので、炭の火力調整もできます。	
A-05	火のし・コテ (ひのし・こて)	よそおう (容姿)	炭火アイロンが登場する前の、布や衣のしわをのばす道具です。	
A-06	飯びつ (めしびつ)	食べる (食料調理・食用具)	カマドと羽釜で炊いたご飯は、飯びつに移し変えておきました。	

夏に活躍した道具

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
B-01	蠅取紙 (はえとりがみ)	住まう (住)	ハイトリリボン 昭和30年代後半	
B-02	蠅取器 (はえとりき)	住まう (住)	ガラス管製のハエ取器。天井に止まっているハエを捕まえます。 ※ガラス製品：取扱い注意！	
B-03	蚊遣豚 (かやりぶた)	住まう (住)	今では蚊取り線香を中に入れて使いますが、もともとは蚊遣り(おがくず、小枝、落ち葉、乾燥させた草などを使って火をおこし、いぶしたもの)を入れる道具でした。	
B-04	線香皿 (せんこうざら)	住まう (住)	渦まき型蚊取り線香を、携帯するときに使う道具です。	
B-05	噴霧器 (ふんむき)	住まう (住)	殺虫液をタンクに入れて、水鉄砲のように手押し式ポンプで噴射します。	
B-06	エアー式殺虫剤 (えあーしきさつちゅうざい)	住まう (住)	キンチョール(エアゾール)	
B-07	陶枕 (とうちん)	住まう (住)	陶器製の枕で、中に水を入れて冷たくして使うこともできます。「富貴」「長命」など縁起のよい文字が書かれています。	
B-08	風鈴 (ふうりん)	涼む (冷房)	音で「涼」を感じさせる、風流な道具です。	
B-09	団扇・団扇籠 (うちわ・うちわかご)	涼む (冷房)	団扇のホネも竹製でしたが、近年はプラスチック製が多いです。エアコンや冷房がない時代、夏場の来客に、団扇籠に団扇を置いて、「涼」を勧めるのもおもてなしの一つでした。	

冬に活躍した道具

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
C-01	湯たんぽ1 (ゆたんぽ)	あたためる (暖房)	陶器製・平型	
C-02	湯たんぽ2 (ゆたんぽ)	あたためる (暖房)	陶器製・俵型	
C-03	湯たんぽ3 (ゆたんぽ)	あたためる (暖房)	トタン製	
C-04	豆炭行火 (まめたんあなか)	あたためる (暖房)	品川燃料製 「豆炭1個で24時間」が売り文句でした。	
C-05	白金カイロ (はくきんかいろう)	あたためる (暖房)	ハクキンカイロ製 ベンジンを燃料に使いますが、気化したベンジンが白金の触媒作用で徐々に酸化発熱することを利用して、安全で長時間暖かさを保つようになっています。	
C-06	使い捨てカイロ (つかいすてかいろう)	あたためる (暖房)	サンエックス製 鉄粉、水、木材チップ、活性炭を材料とした、現在主流のカイロですが、郵便物として送ることができるアイデア商品です。	

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
D-01	家計簿 (かけいぼ)	住まう (住)	昭和40年代、当時の物価やくらしのようすが分かります。	
D-02	少年・少女雑誌 (しょうねん・しょうじょざっし)	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽)	「少年キング」昭和42(1967)年 「少女フレンド」昭和40(1965)年など 昭和40年代頃のマンガ雑誌	
D-03	雑誌「暮しの手帖」 (ざっし くらしのてちょう)	伝える (意思伝達)	おもに昭和40年代に発刊された雑誌の中から提供します。	
D-04	トヨタ自動車のカタログ (とよたじどうしゃのかたろぐ)	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽)	昭和32(1957)～33(1958)年	
D-05	1970年代を象徴するもの (1970ねんだいをしょうちょうするもの)	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽)	大阪万博の写真 オーディオ機器の取り扱い説明書	
D-06	カルピス オリンピック ハイライト ソノシート	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽)	昭和39年東京オリンピックの様子を記録した5枚組ソノシート(レコード)	

学びに関する道具

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
E-01	教科書 (きょうかしょ)	伝える (意思伝達)	教科や学年はバラバラですが、明治から昭和の教科書複数あります。利用学年に近い学年の教科書を選び提供します。	
E-02	雑誌「こども家の光」 (ざっし こどもいえのひかり)	伝える (意思伝達)	昭和32(1957)～33(1958)年	
E-03	石盤 (せきばん)	伝える (意思伝達)	外国からもたらされた学習用具。石筆で字を書き、ぼろ布で石盤表面を拭けば、繰り返し書くことができます。文字の練習、算数の計算などに使用しました。	
E-04	謄写版 (とうしゃばん)	伝える (意思伝達)	ガリ版とも呼ばれ、ロウ原紙に鉄筆で書いて原稿を作製し、インクで刷りました。	
E-05	算盤 (そろばん)	計る (計量用具)	五玉の算盤	
E-06	矢立 (やだて)	伝える (意思伝達)	墨と筆を納めた携帯用の筆記具	

戦時下の暮らしに関する道具

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
F-01	紙芝居「常会の手引」 (かみしばい じょうかいのてびき)	伝える (意思伝達)	戦時下のくらしで作られた紙芝居	
F-02	防空頭巾 (ぼうくうずきん)	身につける (着用具)	戦時下のくらしの必需品。内側に名前や住所を記しました。	
F-03	鉄兜 (てつかぶと)	身につける (着用具)	男性は、防空頭巾ではなく鉄兜をかぶりしました。	
F-04	戦争柄団扇 (せんそうがらうちわ)	涼む (冷房)		
F-05	衣料切符 (いりょうきっぷ)	計る (計量用具)	物資が不足し、日用品も配給切符によって、管理統制されました。	
F-06	日の丸国旗(寄せ書き) (ひのまるこっき)	祈る・まじなう (信仰呪術用具)	戦地へ赴く人の武運を願い、日の丸国旗に寄せ書きがされました。	
F-07	暮らしの手帳(特集-戦争中の暮らしの記録-)	伝える (意思伝達用具)	1968年夏 96号	

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
G-01	ランプ (らんぷ)	住まう (住)	笠のない台ランプは、専用の台の上にこのランプを置いて使用しました。	
G-02	羽釜 (はがま)	かしぐ (煮焼蒸用具)	羽釜とカマドでご飯を炊きます。	
G-03	かつお節削り器 (かつおぶしけずりき)	食べる (食料調理・食用具)	かつお節を削る道具です。	
G-04	あられ煎り (あられいり)	食べる(食料調理・食用具)	餅を小さく刻み乾燥させ保管し、あられ煎りに入れて、火であぶって、おやつを作ります。	
G-05	保温ジャー(魔法瓶) (ほおんじゃー まほうびん)	食べる (食料調理・食用具)	炊いたご飯を保温する道具。	
G-06	イズミ (いずみ)	食べる (食料調理・食用具)	炊いたご飯をお櫃に入れ、さらにイズミに入れて保温します。	
G-07	電気あんか (でんきあんか)	あたためる (暖房)	お布団にいて、手足を温めます。	
G-08	背負子 (しょいこ)	計る (計量用具)	山仕事など、荷物を担ぐときに使います。	
G-09	竿秤 (さおばかり)	計る (計量用具)	重さをはかる道具です。	
G-10	箱枕 (はこまくら)	住まう (住)	日本髪などマゲを結った人が寝るときに使います。	

番号	名 称	キーワード	説 明	写 真
G-11	洗濯板 (せんたくいた)	よそおう (容姿用具)	洗濯板とたらいで洗濯します。	
G-12	火鉢(手あぶり) (ひばち てあぶり)	あたためる (暖房)	手を温める道具です。	
G-13	下駄・草履 (げた・ぞうり)	身につける (着用具)		
G-14	子守半纏 (こもりばんてん)	身につける (着用具)	子どもを背負い(おんぶ)している上から羽織る防寒具です。	
G-15	バリカン (ばりかん)	よそおう (容姿用具)	丸刈りにする道具です。	
G-16	くけ台 (くけだい)	つくる (加工用具)	裁縫をするときに使います。	
G-17	二眼レフカメラ (にがんれふかめら)	遊ぶ・楽しむ (玩具・遊戯・娯楽用具)		
G-18	置き薬箱 (おきくすりばこ)	祈る・まじなう (信仰呪術用具)	薬売りが各家庭を訪れ、使った分だけお金を支払い、薬を補充してもらいます。	